

ドライバーの意識と車両の改善で 燃費を向上

運送事業において、自社の利益を残すためには具体的にどのような取り組みが必要なのかを紹介しています。今月は、燃費を向上させ利益につなげるポイントについて、船井総研ロジ株式会社の鈴木敦大氏に解説してもらいます。

評価制度を設け、燃費向上を確実に

燃費を向上させる方策は、大きく2つあげられます。ひとつはドライバーの意識改善、もうひとつは車両に関する改善です。それぞれについて解説していきます。

ドライバーの急発進と急ブレーキに対する意識改善

燃費向上に向けてドライバーに求められるのは、急発進と急ブレーキに対する意識の改善です。急発進に対する改善では、ゆっくりしたアクセルの踏み込みが効果的でしょう。急発進は、必要以上にエンジンの高回転域を使うことになり、通常の走行に比べて著しく燃費が悪くなります。要は、ゆっくり加速し早め早めにシフトアップしていくことです。できるだけグリーンゾーン下限の回転域を使って運転しましょう。

また急ブレーキに関しては、そもそも急ブレーキをかけなければならない環境下に身を置いていることが問題です。走行中は、車両間隔を一定以上に保つことを心がけましょう。

車両に関する改善

積載重量の削減やタイヤの空気圧の適正化などは、燃費向上に効果的です。まず、 unnecessaryな荷物は極力載せずに走行しましょう。実際は軽くなった分、積載量の増加に回ることになり、フル積載状態では燃費向上の効果は期待できません。しかし、空車時や積荷に余裕がある走行では、車両重量が軽いほどやはり燃費は良くなるのです。

またタイヤの空気圧が200kPa(キロパスカル)低いと、燃費は約3%悪くなるといわれます(大型車の場合)。よって空気圧をこまめに確認し、適正値を維持することが重要になります。

出典：公益社団法人 全日本トラック協会「エコドライブ推進マニュアル」

これらの燃費向上策を継続して実行していくためには、ドライバーに対する評価制度の構築が不可欠になります。ドライバー自身の評価に関する数値であれば、日々意識した運転を心掛けるからです。また、ゲーム感覚で日々の数値に見える化し、競わせることも継続させるための手法になります。

基準となる数値や考慮すべき項目を社内で共有し、燃費改善の取り組みを継続させる仕組みを構築させ、利益向上に努めてください。

鈴木敦大 (すずき あつひろ)

船井総研ロジ株式会社 ライン統括本部 コンサルティンググループ所属。
大手食品会社の物流子会社では配車業務などをを経て、現在はグローバル企業(自動車メーカー)の輪配送効率化プロジェクト、大手産業資材メーカー物流子会社の現状分析&評価などに携わる。これまでの経験を活かし、物流における輪配送コストに特化したコスト削減提案、支援を実施している。